

# 『急性腹症の勘所』 ～右季肋部痛編～

◎丸山 裕司<sup>1)</sup>

国家公務員共済組合連合会 浜の町病院<sup>1)</sup>

### 【はじめに】

一般的に、急性腹症は急激な腹痛を主訴とし、緊急手術や緊急処置などの迅速な初期対応が求められる疾患群であり、その原因臓器および疾患は多岐にわたる。

急性腹症における超音波検査は限られた時間の中で、効率的かつ正確な診断スキルが求められる。効率的な超音波診断を行う上で、検査前に患者情報を収集する事が重要であるが、血液生化学検査や他の画像検査の結果が出ていないことも多く、患者の年齢、性別、病歴、現症が重要となる。また、急性腹症における超音波検査は、走査技術よりも知識量に依存すると言われており、日頃より書籍や学会等で疾患に関する知識向上が、正確な超音波診断に繋がる。

今回は、臨床でよく経験する「右季肋部痛」を主訴に超音波検査を実施した症例を『急性腹症の勘所』と題して読影ポイント等について解説していきます。

### 【右季肋部痛の原因疾患】

【消化器系疾患】 胆嚢炎、胆石症、胆管炎、大腸炎、憩室炎、虫垂炎、肝膿瘍、肝炎、肝腫瘍、胃潰瘍、十二指腸潰瘍、膵炎

【血管系疾患】 急性冠症候群、心筋炎、心内膜炎、心外膜炎大動脈解離、上腸間膜動脈解離

【尿路系疾患】 腎結石症、腎盂腎炎、尿管結石、腎梗塞、副腎梗塞、副腎出血

【その他】 呼吸器疾患（肺炎、肺塞栓、膿胸）、FHCS

### 【Case report】

【症例1】 60代女性、主訴：右季肋部痛、発熱

【症例2】 30代女性、主訴：右季肋部痛

【症例3】 30代女性、妊娠32週、主訴：右季肋部痛

【症例4】 30代女性、妊娠37週主訴：右季肋部～右側腹部痛、肉眼的血尿

【症例5】 20代女性、主訴：右季肋部痛

### 【おわりに】

急性腹症における超音波検査は、効率的かつ正確な診断スキルが必要となる。そのためには、多くの疾患に対して十分な知識が必要となる。日頃の知識向上が技術向上にも繋がり、その抽出しが多いほど正確な超音波診断に繋がる。